

教員 1 年目で触れた教職の魅力

阿部 佳宣（山形県立山形西高等学校教諭）

1. 教職の魅力創造プラットフォーム会議に参加して

私は第1回の会議にのみ参加し、ここで大きく2つの学びを得ることができた。

1つ目は、普段見ることができない生徒の一面を見ることができたことである。今回山形西高校の代表として参加した生徒について、私は授業も持っておらず、掃除で話すことぐらいでしか接点を持っていなかった。そのため、その生徒の印象がいつも友達と仲良く適度に関わっているという印象しか持っていなかった。しかし、今回の会議で多くの大人に囲まれた中でしっかりと上を向いて自分の意見を発しており、これまで知ることができなかった真剣な姿を見られたことが一つの収穫である。

2つ目は、魅力を押し出すことの重要性を感じられたことである。「教員はブラックだ」というイメージは多くの人の共通認識だと思う。実際に私もまだ数か月しか働いていないが、その一面を見る機会が少なからずあり、これを改善するためには「業務の改善」や「働かせ放題の制度の撤廃」をする以外に方法がないと考えていた。しかし、この会議の最後に「同じような状態の企業でも認知度が違っているために相対的に教員がブラックであるという認識が強くなってしまっている」ということを聞き、納得できる理由を一つ得られたように感じた。また、先に挙げた問題の改善も急務ではあるが、それを改善するよりも早く教員の不足がやってくるという話も聞き、今教職に興味を持っている生徒への魅力拡大が重要だと感じた。

2. 教職の魅力創造プロジェクトを知って

私は今年度から山形で教員になり、初めて「教職の魅力創造プロジェクト」というプロジェクトがあるということを知った。その中で、聞き書きプロジェクトや教員体験セミナーが強く印象に残った。

聞き書きプロジェクトについて、私は今年度に採用されたためまだ卒業生を出したことがなく、周りの先生が来校した卒業生と話している姿に強い憧れがあった。その中で聞き書きプロジェクトを知り、「生徒の悩みを真摯に聞いて向き合い、その後の人生に良い影響を与えた先生方の話」やその当時の生徒の話を知ることができ、自分も先達に学び、今教えている生徒たちが私を聞き書きに選んでくれるよう真摯に向き合っていきたいと思う、私にとっても良いきっかけになった。

教員体験セミナーについて、参加した生徒に話を聞いたところ、「大学生になったら教育実習などで体験する機会はあると思うけど、高校生のうちに体験できるのは他県にはないから開催してくれてうれしい」「普段は生徒として授業を受けているけれど、先生側の視点で授業を見るのは初めてで、先生の発問に対して児童がどんな反応をするかを意識して授業を見ることができてすごくいい経験になった」「セミナーを受ける前までは小中高のどの先生になりたいか決まっていなかったが、セミナーを通して自分には小学校の先生が一番合っていると思った」と、総じてポジティブな感想が返ってきた。このことから、教職の魅力を感じるという点で非常に効果的なセミナーだったと感じた。